

持続的利用の原則を支持する国際捕鯨委員会（IWC） 加盟国の共通認識  
（仮訳）

平成 21 年 4 月 23 日

東京

IWC 内の現状および IWC を麻痺させた難局を解決するという小作業部会の努力を鑑み、鯨類の持続的利用を支持する代表者会合が、4 月 22 日から 23 日に東京で開催された。同会合では、IWC の機能と、世界の鯨類の適切な保安全管理を目的とする国際捕鯨取締条約（ICRW）を実施するというその役割や責任について、以下の共通認識を採択した。

IWC 加盟 32 カ国の代表は、「IWC の将来」に関する活動に留意し、ICRW が捕鯨管理のための条約であるとする認識が受け入れられるよう常に誠実な交渉に努めてきた。このことを踏まえ、IWC 年次会合および関連する中間会合について、以下の共通認識を支持することを表明する：

- ・ 我々は、持続的な沿岸共同体、持続的な生活、伝統文化の保存、食料安全保障、及び貧困の軽減等に寄与する豊富な鯨類資源の持続的利用の原則を支持します。
- ・ 我々は、鯨類が伝統的に食料として用いられてきた他の海洋または陸上生物資源となんら変わることがないことから、世界的に容認されている持続的利用の概念、科学に基づいた管理規範や規則の外に鯨類を位置づけることに反対します。
- ・ 多くの鯨類資源が豊富で、また増加していることを認識し、ICRW と合致する豊富な鯨類資源の持続的な利用及び枯渇した鯨類資源の保護を支持します。
- ・ 我々は鯨類製品の国際取引の再開を歓迎し、本件は IWC の管轄外であることをあらためて表明します。
- ・ 我々は現行の「先住民生存捕鯨」、「商業捕鯨」、「小型捕鯨」等の捕鯨区分は、差別的であり、資源管理に関し何の意味もないため、これらの用語を使用し続けることに、懸念を表明します。
- ・ 我々は、鯨の捕獲に関しては、その目的に関わらず、「捕獲枠」という普遍的な言葉を用いることを強く推奨します。
- ・ 我々は、IWC によりコンセンサスで採択された改訂管理方式（RMP）が安全な管理方

法であることから、資源が回復し、豊富な鯨類資源に対するモラトリアムの継続に反対します。

- 我々は、ICRW に反するサンクチュアリの設定には引き続き反対します。
- 我々は、鯨類の資源動向や鯨類と海洋生態系との相互作用を考察するための科学的調査として、致命的及び非致命的の双方の調査方法が必要であることを認識します。そして、
- 我々は、食料安全保障や伝統食文化の維持・保護が基本的な権利であることを保障する決定を支持します。